

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①について。アドバイスの内容を説明する次の文章の空欄に、本文中から当てはまる語句を抜き出して入れましょう。

[ ]する際には[ ]つもりで、

[ ]する際には[ ]する

つもりで歩くとよい。

2 傍線部②について。「真に受ける」の読みと、慣用句としての意味を書きましょう。

読み [ ]に[ ]ける

意味 [ ]

3 傍線部③について。なぜ城主が弱虫なほど、城は強くなるのでしょうか。空欄に適語を入れましょう。

城主が[ ]時間をかせぐために、

敵が安易に[ ]ことができない

ような仕掛けを工夫するから。

カミさんと姫路城に行ったことがある。「平成の大修理」と呼ばれた改修工事の時期だったのだが、カミさんがそんな時の方が価値があると力説するので一緒に行ってみることにした。姫路城は姫路城が描かれた袋をかぶっており、その奇妙さは確かに一見の価値があった。
そもそも城にあまり興味のない私は事前に城散策の楽しみ方を「キャスラー」の友人にメールで尋ねてみることにした。キャスラーとは私が勝手に作った「城マニア」を意味する言葉だ。まずは「笑点」司会でおなじみの春風亭昇太氏に尋ねた。なんだかいろいろ細かいで伝わってこなかった。
だが、もう一人のキャスラー、プロレスラーの藤波辰爾選手からの返答は素晴らしかった。「入城する際には攻め入るつもりで。退城する際には侵入者を撃退するつもりで歩いてみてください」。さすがは格闘家だ。この藤波選手のアドバイスは私をとんでもなく奮い立たせた。



### 姫路城のひみつ

後藤 ひろひと

### 随想

なるほどよくできた城だ。天井が低く槍を持っていては曲がれない通路。天守閣は近くに見えるのに、向かおうとするときどき遠ざかってしまうトリック構造①。ドラゴン藤波のアドバイスに従うことで、思わぬ大興奮を経験する城散策となった。
さて帰宅しようとして少し離れた場所の駐車場に向かった頃、春風亭昇太氏から「今どこですか？」とメールがあった。駐車場だと返信すると、すごい話が送られてきた。
「素晴らしいお城だったでしょう？ けども城主はあのお城にはおりませんでした。城主が住んでいたのはその駐車場辺りにあった屋敷です。敵が攻めてきたら彼はその軍勢をしれーつと駐車場で見送り、敵が城内で迷っているうちにゆっくり支度して逃げる算段だったのですよ」②
創作落語家の言う話を真に受けていいのかわからないが③。要は城主が弱虫なほど城は強くなるという事で合っているのだろうか？
(劇作家、演出家)

